

紫外線照射で瞬時に乾燥

株式会社デサン (さいたま市北区)

UVインクジェット機による生産性向上と高付加価値製品の供給

華やかなデザインを施したラッピングバス。車体に塗装するのではなく、デザインや画像を印刷したフィルムを貼り付けるマーキングフィルム加工で、デサン社は国内の草分け的な存在だ。今年8月には、2020年東京五輪・パラリンピックのマスコットキャラクターをデザインしたラッピングバス18台を製作。都営バスが運行を始めている。

このラッピングバスの施工で活躍したのが2014年9月に導入したUVインクジェットプリンター。紫外線硬化型のインクを使い、吹き付けた後に紫外線を照射し瞬間的に固める。刷り上がったフィルムはオーバールミネートをかければそのまま車体に貼り付けられ、生産性が非常に高い。

従来の溶剤型プリンターは刷り上がったフィルムをファインで乾かし、さらに一晚乾燥させる工程が必要だった。実際、東京五輪キャラのラッピングバスは1日1台のペースで施工をこなしたという。

しかも同社は、導入したUVインクジェットプリンターでの印刷物に対し、最長6年間の保証プログラムを設けている。指定のインクを使用し、同社の印刷技術者が製作することで、高品質なグラフィック

クスを提供している。

幅1600ミリまでの大判印刷に対応でき、発色や仕上がりの美しさは全くそんな色ない。同社のマーキングフィルムのうちUVインクジェットを使った製品は4/5割を占めるまでになっている。

今後はマーキングフィルムとデジタルサイネージ(電子看板)との連動を視野に入れている。例えば、サイネージ

の前にあるショーウィンドーに装飾を施し、サイネージとの一体的な視覚効果を持たせた広告展開の提案だ。早くからデジタルサイネージ事業にも取り組む同社なら社内で一貫通貫して請け負える。

藤池一誠社長は「東京五輪・パラリンピックが開催される2020年には街のあちこちで見かけるようにしたい」と話す。



デサン社が展開するホスピタルアート。病院の小児科やキッズルームに装飾を施し、癒やしの空間を演出する
(原画: まなかふみこ作)

【株式会社デサン】

■本社 さいたま市北区大成町4の140

■代表者 代表取締役社長 藤池一誠

■設立 1981年7月

■資本金 3000万円

■従業員数 87人

■電話番号 048(651)1881

「メモ」 前身は、東邦特殊自動車工業(現・東邦車輛)の社内外注の下請け会社として1960年に設立された藤池塗装工業所。蓮田工場・営業所、栗橋工場などの拠点を持つほか、昨年には東京・千代田区に東京支店を開設した。